

第1回中京独立戦略本部会議 議事概要

本部長	主な意見
河村たかし	○地方分権や道州制など色々な議論があったが、やはり現に住んでいる市民・県民の皆さまの生活にとって、意味があるものでないといけない。 ○リニアは、東京・名古屋間が完成してから15年間は名古屋がターミナル駅になるということだが、大阪が黙っているとは思えない。すぐ通過駅になってしまうという恐怖感を持たないといけない。 ○名古屋に住んでいて面白い、名古屋に遊びに行こうかというふうになるようにしたい。商売をやりやすくすることが基本で、日本中、世界中で、商売をするなら名古屋へ行こうと言ってもらえるまちをつくる。 ○歴史・文化では、熱田神宮や草薙の剣といった神話にあるものが現世にあるのは非常に珍しい。もっとクローズアップして、都市の背骨として、自慢になるようにしたい。名古屋城も木造で復元して一つの核にしたい。 ○大阪の話もあるが、名古屋の人間は、名古屋を分割するという精神はないと思う。名古屋は東京、大阪に続く三男坊なので、人口の大きなまちにしていきたいという思いが強い。横浜の369万人を超える400万人のまちをつくれれば日本一の人口になる。私は、「尾張名古屋共和国」をつくっていくという精神でおり、「ユナイテッド・シティズ・オブ・オワリナゴヤ」という雰囲気をつくっていききたい。 ○地方の独立のためには、財政的には独立採算制にする。国税も徴収して、自ら査定して国に支払いをした方が、モラルハザードにならず、メリハリがつく。 ○本部員の方から、本部長の2人が何を考えているのかということを出してほしいとのことなので、次に、叩き台の叩き台のその叩き台というくらいになるか分からないが、つくりたいと思う。

本部長	主な意見
大村 秀章	○大阪と愛知の違いというのは、愛知県の面積は大阪の3倍近くあり、全面的に愛知全体に企業群・産業群が張り付いており、これほどの工業集積をもったところはないことである。愛知県の製造品出荷額は38兆円、第2位の神奈川が17兆円で、第3位の静岡と大阪が15兆円である。 ○産業集積の愛知と大都市機能の名古屋という互いの長所をしっかりと引き出して、前に向けて進めていく。 ○今、世界で発展しているのは、国ではなく、大都市である。中国が良い例で、たった30年で上海とか広州、香港、深圳、天津、大連、沿海部があれだけの発展を遂げるのは、拠点拠点に特区をつくり、全権を渡して、税の徴収もそれぞれの市や省が行い、必要なものを国に上納している。是非、このようにしていかなければいけない。 ○明治の廃藩置県で名古屋県などたくさん県ができた1年後の1872年、名古屋県が犬山県を合併して愛知県となり、その半年後には三河と知多を併合して、今の愛知県の形ができた。愛知というのは何かというと、名古屋のことで、当時名古屋市がなかったので、愛知県庁を名古屋城の中に置き、そこが愛知郡だったので、愛知県とつけた歴史がある。 ○それから140年経って、未だに中央集権体制が続いている。これは世界のいわゆるビジネスモデルに合わないようになってきた。この中央集権体制をぶち壊して、各地区の大都市が自立するのが今の流れである。 ○中京都構想を実現するのと合わせて、ぜひ東海地区と中部地区をエリアとする道州制をにらんで、運動を進めていきたい。その中で一番のポイントは、まずは「愛知・名古屋の独立」ということを目指して、本部員の皆さんとしっかりと議論をしていきたい。 ○歴史と文化というものがなければ、その地域・都市の価値が語れないと私も思っており、産業とか福祉、教育も大事だが、是非、歴史と文化、アイデンティティを高めるものをつくっていきたい。

本部長	主な意見
浅井 慎平	○大学の最初の授業では、「君の知らない君に会いにいけ」という言葉を必ず言う。知事・市長が、「新しい名古屋に会いにいきたい」と、その心をかけたものであり、私にも意見を聞きたいということだと理解をして来た。 ○二人が何を考えているかを、私たちが逆に聞かなければならない。愛知・名古屋がどんな人格であり、自分たちが何者であるかをまず知るところから、新しい選択が始まるのではないか。 ○芸術や文化、科学に携わる人たちが意見を求められるのは、いつも後になる。政治とは直接、関係はないが、そういう人たちの意見を事前に聞くことは大事なこと。 ○名古屋は、パブリシティが下手なため、実力がほとんど知られていない。名古屋の教育を全国区にすれば、名古屋に縁ができる若い人たちが増える。 ○芸術的なセンターとしての愛知・名古屋が、人々の人生、幸せとも繋がっていく。名古屋に縁があれば、幸福が手に入るというようなイメージを是非発信してほしい。 ○まちを歩いただけで何かアイデアが浮かんだり、人生豊かだったり、楽しかったりするような空間や時間を名古屋・愛知が発信するべき。
井沢 元彦	○明治国家は、極端な中央集権な国家であり、それは時代の要請として日本の地方を平準化するためには必要だったが、その弊害が、今、出ているのではないか。「国家何するものぞ」という気概を持つことは大変結構なことだ。 ○今後、高齢人口が増えていくので、介護の面、医療の面で先進の技術を開発し、世界に尊敬され、注目されるようになればいいのではないか。 ○首都機能を分散して、いくつかの部分を担当することは、独立の逆で、従属になってしまう。中京圏自体が1つの国家として東京が大変なときに、愛知・名古屋が代わりを務めることができればいい。 ○この戦略本部会議について批判がひとつあるとすれば、女性のメンバーがいないことだ。 ○喫緊の課題は少子化対策である。例えば、子どもが多いほど得をするような都市にすれば、自ずと人材が集まる。

本部員	主な意見
奥野 信宏	○国土政策の観点から「日本を引っ張る大都市圏としての 中京都」「広域圏の中核都市としての中京都」「民間が主 導する大都市としての中京都」の3点について期待して いる。 ○政府は、成長戦略を担うのは大都市としている。名古屋 圏が真のエンジンであると言われる一方で、名古屋は都 市魅力のランキングの対象にすらならない。名古屋の魅 力をどのように訴えていくかだ。 ○今の国土計画の基本は、広域都市圏、中部圏で考える ということ。圏域内の都市はそれぞれの役割を担っており、 連携してはじめて機能が発揮できる。 ○まちづくりは、民間が主導するべきである。大都市圏の 魅力を高める4つのポイントは、「ビジネスが効率的に行 える街」「高齢者にとっても住みやすい街」「国際的に活 用される街」「歴史・文化が感じられ、環境にやさしい街」 である。
小澤 哲	○製造業あるいはモノづくりの視点から、3点、話をさせ ていただく。1点目は、愛知・名古屋のモノづくりを、 この先10年のスパンで、韓国、中国と闘っていける競争 環境が整備された地域にしていかなければいけない。ベン チマークとしては、10年後、韓国、中国の企業が愛知・ 名古屋に直接投資をして進出したいというような、海外 の企業にとって魅力がある地域にしていけるにはどうする かを考えていかなければいけない。 ○2点目は、10年以上先をにらんで、モノづくりの革新技 術がこの地域からしっかりと育っていくよう、研究開発 都市としての優位性を持った地域にならなければいけな い。このベンチマークとしては、海外、特に東南アジア からの優秀な研究者が、ここで研究をしたいと言える地 域になるということ。 ○3点目は、新しい産業の創出。具体的に言うと、スマー トハウス、スマートコミュニティは、これから大きな市 場になる。この地域には、それらの要素・技術が高いレ ベルで集約がされており、ハードとエネルギーをマネジ メントするシステムをメイド・イン・アイチという形で 輸出産業にまで高めることができれば素晴らしい。

本部長	主な意見
木村 操	○「世界と闘える愛知・名古屋の実現」に向けた課題の1つ目は、「成長著しいアジアパワーの取り込み」。県・市共同による海外展開サポートデスクを開設し、特に中小企業向けにきめの細かい支援をしていただくとともに、インバウンドの促進に向け、トップセールスや海外メディア向けの情報発信強化など、県・市一体となって戦略を立て、リードしていただきたい。 ○2つ目は、「次世代産業の振興と中小企業の育成」。次世代自動車や航空宇宙産業など次世代産業の振興や、中小企業の効果的な新分野参入策を県・市一体で行っていただきたい。また、学生や女性、シニアなど幅広い層が創業にチャレンジできるよう、支援体制の充実をしていただきたい。 ○3つ目は、「リニア開通を機とした魅力あるまちづくり」。都市魅力の創出や乗換えの利便性の向上など課題があるが、特定都市再生緊急整備地域制度を活用し、思い切った再開発等を推進すべきである。 ○4つ目は、「インフラ等の事業環境の整備促進」。陸・海・空のインフラ整備など事業環境の整備促進は、地元企業の成長はもとより、国内外の企業の進出メリット増加に大きく寄与する。知事・市長には、地域の総力を結集し、先頭に立って進めていただきたい。
柘植 康英	○目指すキーワードは、「元気な都市」「集まる都市」「安心な都市」「豊かな都市」である。 ○愛知・名古屋版の成長戦略が必要であり、製造業が国際競争に勝ち、拠点と雇用を守り、育てる必要がある。また、次世代産業の育成や、先をにらんだ研究、開発の推進が必要である。 ○広域的な観光、企業などの誘致、災害に強い都市づくりを進め、教育、文化、医療、芸術をさらに充実していく必要がある。 ○地方分権の議論があるが、実質的な事柄を進める方が有益であり、形の議論よりも、効率的な行政のあり方、バス、地下鉄などの公益事業や、防災、観光など他県との広域的な行政の連携により、「実」を挙げていくことに意味がある。

本部員	主な意見
鶴田 欣也	○こういった会議に、我々中小企業を呼んでいただいたということに感謝している。 ○1点目は、連携ネットワークを築いて、その仕組みを明確に示していくこと。例えば、中部国際空港などのインフラを活かした航空機関連産業をはじめ、繊維や陶磁器など地場産業の組合などのモノづくりとともに、流通やサービス業など、複合的に1つのパッケージ化された産業として、国内外に力強く発信していくべきである。 ○2点目は、事業の承継、転業、開業を円滑に推進する環境を整備していくこと。事業継続をしっかりと引き継げるような税制や、技能者の育成、そして人材のマッチングを推し進めていくことが必要である。 ○3点目は、新たなサービスと雇用を育む観光の振興が必要。例えば、リニアのオペレーションセンターで、日本にしか出来ない運行制御システムを世界の人に見てもらってはどうか。中小企業の持つ機敏性や、個性的できめ細かなサービス活動は、日本の文化と伝統とともに、大いに喜んでいただけたらと思っている。 ○「世界と闘える愛知・名古屋」の実現は、中小企業の成長、発展、事業承継と表裏一体であり、中小企業が中京都構想の主役になるぐらいのつもりで取り組みたい。
中村 捷二	○中部経済連合会として、この地域の経済は、これまで自動車一本で来たが、もう少し先を考えて、航空宇宙産業、次世代自動車、資源リサイクル、長寿、観光などに取り組むことを提案している。 ○現代の社会において、中央集権のやり方ではうまくいかないのではないかと考えており、特に「道州制」について検討しているほか、以前より県境を越えた「三遠南信」という地域連携に取り組んできた。 ○この会議は、本部員から提案された事柄について、具体的に実現する仕組みを、大きな観点から築きあげるものと思っている。 ○「独立」や「中京都構想」というものが、具体的にどういふことなのかによって、進む方向にも影響すると思うので、市長・知事のもう少し具体的な目指す方向をお聞かせいただきたい。

本部員	主な意見
濱口 道成	○今は、明治・戦後に次ぐ第3の転換期にある。明治・戦後に共通していることは、新しい時代をつくったのは若者だということ。若者が元気になって、その才能が活かされるような地域をつくっていただきたい。例えば、名古屋大学では、若い人材を世界中から集めるため、今年度から秋入学のプログラムとして、英語で全ての授業を行うことをスタートさせている。 ○シンガポールや上海のような世界と闘える大都市をつくるのが大事である。新しい産業を開発していくためには、大学と地域の研究機関、企業が連携して研究開発できる環境をつくるとともに、大胆な税制が必要である。 ○東京や大阪と比べると、名古屋は非常に強い地盤の上にある。この地域の特徴を活かして、強い社会システム、インフラにより、防災に強い名古屋・愛知をつくりあげることが戦略的に議論していただきたい。 ○産業を活性化させるためには、労働人口が必要で、安心して職場に出ながら子育てできる環境がないといけない。そうした環境をつくれれば人は集まる。例えば、地域の高齢者ボランティアやITの活用を検討いただきたい。
浜本 英嗣	○中央に対して権限や税源の移譲を主張していく前提として、効率があがるという論拠が必要である。職員数をある比率の中におさめることを明確にしたり、ごみの分別の時のように、市民の負担により、行政のコストパフォーマンスが上がるということを示すことが必要である。 ○企業活動の活性化は極めて重要な課題。この地域は、産業基盤である交通インフラも全てそろっているが、外国から企業が来ない。 ○この地域の特徴はモノづくり。先端技術の先進性を維持していくことが必要であり、そのためには、人材確保のために工業高校などを強化しなければならない。 ○行政や研究機関も、この地域に本社・本部があるマザーファクトリーの発展といった論点に絞ったほうが、地域の特徴が出るのではないかな。

本部員	主な意見
安田 文吉 〔 当日欠席のため、書面にて意見表明 〕	○研究開発拠点を整備するのも必要だが、それを使いこなす人づくりこそ、研究の成果を挙げるために重要で、若い人が積極的に活動できるような教育施策を整備すべき。 ○歴史や文化には、核となる拠点が必要。歴史の史実に基づくものでないと、他には真似のできない「本物の」魅力は生まれない。 ○トリエンナーレなどの国際的なイベントも、地元の歴史・文化とシンクロすることが必要。 ○徳川家康は、幕府の経済活動拠点の象徴として天守閣に金シャチを上げ、碁盤割りの城下町を作り、清須越しなどによって商人・職人を集め、経済活動の基盤を作った。七代尾張藩主徳川宗春は、これを強力に推し進め、結果、町人が強い実力を持つに至った。また、芸処として、習いごとや、歌舞伎の鑑賞を大いに勧め、芸処の花が開いた。 ○今、金シャチ横丁の構想が盛り上がってきているが、他地域の横丁とは違う、オリジナルな仕掛けが必要。例として、歌舞伎小屋（両花道、回り舞台、セリ、スッポンなどを備えた）を核として、大歌舞伎ではなく、地芝居や、名古屋こども歌舞伎などのこども歌舞伎を定期的上演し、全国から人を呼ぶとともに、外国からの観劇も併せて呼び込みたい。芸処なごやと日本の伝統芸能とのコラボレーション。 ○また、これを機に、地芝居公演に合わせて、出演団体地域の物販（名物弁当など）をセットで行うなど、人を惹きつける仕掛けが重要。